

眞想

眞想を不明にし嘘偽の報道を社会に送つてゐる。

これに此着過すべからざる重大問題に當面しても其術策に専らする一忍れ多
分にあるは吾等の想像する如くある故に敬言察の報道のみを以てしては尚
疑念大を懐かざるを得ない。さうして會社の術策に専らせらるればな
らぬと決意し、今村、山口、田中、宮本、の幹部其他多数直ち一本
松に向つて出動した。



會社の之れに對する處置

醫師の診断から入院の運びとなるまで

樞打の場所たる黒門の処に擣割された大井ヤリ女は多数の者を取つか
れたまゝ、約二十五分を其処に経過した。

此の惨虐な行為に警署察は居らぬか、との叫びに五六名の警官は漸次
走り来り取敢つて、醫師を呼ばしめた。

多数の人々は被害者の横臥して居る場所が雪溜りに泥土の中を

みかろめ、過當なる処に運ぶときまでしか會社僱人等は容易に其手差を
を取らなかつたが暫くして遂に孫鋸課の之間に運ばれた。

傍に居た婦人等は被害者に水を吹いてやりつとしても、傭員等は

「お前等とやる水はない」と言ひ又土間なればせめて延命湯を貸せ
よと云ふも仲々に貸與せず遂に多数の婦人の憤怒の声に激馬き水又一枚
のナロビツサ延を何処からともなく持ちまつた等々、斯く惨忍なもの振
舞であつた。

それより約一時間半程して、内科醫師(住友鉱業所医師)一名はまた、
内科醫師の診断に曰く「只大したことはない之れは臍立血を起したの
だ」と云ふ。

傍に居た婦人達は樞打の結果なる事は現に知つてゐるので「若し行
馬鹿な事はな」と口々に言ふ。被害者の苦しみは浸々烈しくなりしため

更にしばらくして外科医(住友鉱業所医師)の診断に及ぶ。医師は
「之れは打撲だ(右乳房の下アバウ)内臓は大分傷んでゐるかも知れない
此ま、かつぎ下せば生命に關するかも知れない」